

サトイモ疫病に対する農薬の散布適期

アミスター20フロアブルの散布適期

背景・目的

- 宮崎県内では、2014年以降、サトイモ疫病の発生により生産量が半減しています。
- 毎年の発生により、種芋生産にも影響が県内の主要産地の維持が難しくなっています。
- このため、2016年度に作成した対策マニュアルを追補する技術を検討しています。

成果の内容

- サトイモ疫病に対するアミスター20フロアブルの2,000倍液散布で、最も高い防除効果が得られるのは発病時です。
- 疫病菌の接種(感染)前後の散布でも、7割程度の防除効果は得られます。

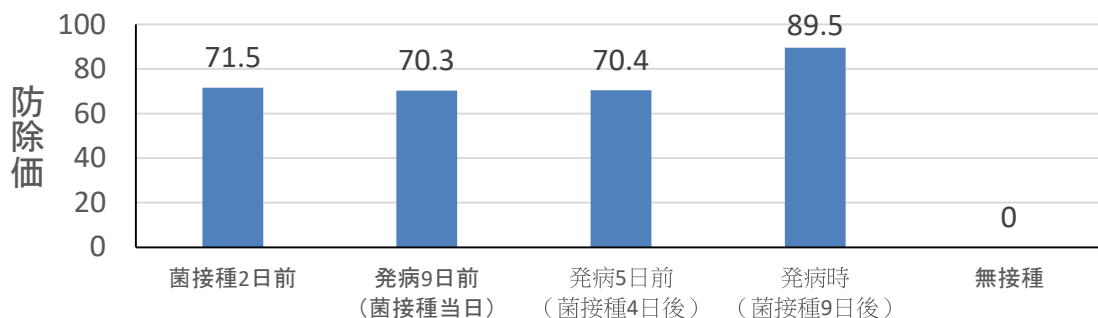


図1:アミスター20フロアブルの散布時期と防除価

成果の活用方法(又は期待される効果)

- 発病好適条件(降雨を伴う平均気温25℃程度の日)からの散布によりサトイモ疫病を抑制できます。
- 圃場をよく観察し、初発時に的確にアミスター20フロアブルを散布すると高い防除効果が得られます。



図2:無防除ほ場の状況(新葉に被害多発生)



図3:防除ほ場の状況(発病はあるが、新葉に被害なし)

- 普及対象地域・面積 中部、北諸県、西諸県、児湯 1,000ha

留意点

- アミスター20フロアブルは薬剤感受性が低下した菌が発生しやすく、使用回数が限られるため、ジーファイン水和剤による芽揃い以降からの予防散布と組み合わせた体系防除を行う必要があります。